

農林水産部

沖縄地域農林水産政策懇談会の開催

沖縄県には、年間約五百万人もの観光客が来県し、食材の提供や土産物原料の供給など、農林水産業にとって大きなビジネスチャンスがあります。しかし、農林水産物に対する観光客・観光関連産業の需要と生産者の供給にはミスマッチが生じており、「観光」と「農林水産業」の一層の連携が求められています。

沖縄総合事務局では、沖縄のリーディング産業である観光産業と農林水産業の振興についての有機的な連携、ひいては沖縄経済の振興を図るため、去る二月九日（月）那覇第二地方合同庁舎大会議室において、「沖縄地域農林水産政策懇談会」を開催し、有識者十一人と、県、国の担当者による意見交換を行いました。

懇談会で

は、成田沖縄総合事務局局長のあいさつの後、前川農林水産部長から、資料をもとに沖縄における



局長あいさつ

沖縄の食生活における県産食材の使用状況（自給率）



ステーキ

牛肉：23.0%
人参：36.0%



ゴーヤーチャンプルー

ゴーヤー：100.0%
ポーク：0.1%
豆腐（大豆）：0%
鶏卵：93.0%

パイナップル：60.0%



パイナップル（デザート）

米：4.2%



ご飯

もずく：99.0%



もずく酢



刺身の盛り合わせ

みそ・豆腐（大豆）0%
山東菜：100.0%
もやし：100.0%
じゃがいも：7%
豚肉：153.0%
鶏卵：93.0%



沖縄風味汁

参考資料
第31次沖縄農林水産統計年報
福岡食糧事務所那覇事務所業務概要
米麦加工食品生産動態調査
家計調査年報
食料需給表
沖縄県統計年鑑
沖縄県中央卸売市場年報
漁業繁殖生産統計年報
果樹生産出荷実績調査
沖縄地区税関資料
畜産物流通統計

「観光」と「農林水産業」の概要について説明がありました。この説明の中で、観光客の沖縄での飲食・土産品購入の農林水産業に対する経済波及効果がわずか八

%で、全国（二十一%）の半分にも満たず、このことから、地元の農林水産物の使用割合が非情に低い実態が明らかになりました。次に大濱石垣市長より八重山の観光と農林水産業について、八重山における観光客は年間六十九万人に達し、土産品については、五十六%がフルーツを買っている。観光客はマンゴーなどのトロピカルフルーツについて八十六%の人がおいしいといっており、評判が良いこと、長寿をアピールすることにより、独特な食材を生かした薬草膳料理から健康の島として売り出していきたいなどの報告がありました。

その後、意見交換に移り、沖縄タイムスの上原氏から、「五百万人の観光客が来るということは、一日に七万人という人口が増えている計算。これだけの消

費者人口がいるということを生産者・農業団体は意識しているのかどうか。市場を睨んだ生産という意識が弱いのではないかと。ホテル業界も量・品質の面から県産品を使いたくても使えない。」との意見がありました。

料理工房「彩花」山里料理長は、ホテルでの勤務経験を踏まえ、「観光客は沖縄の野菜を使った体に良い料理に関心が高い。現場としては沖縄の食材を使いたい、経営者側の考え方もあり難しい。」との話があり、欲しい時に欲しい物が手に入らないことなど生産者側の安定供給に関する問題の指



側は、意見交換に移り、沖縄タイムスの上原氏から、「五百万人の観光客が来るということは、一日に七万人という人口が増えている計算。これだけの消費

摘がありました。

沖縄県産食材の安定供給に関し

また、恩納村漁協の比嘉氏からは「モズク、アーサ、うみぶどうなどをホテルへ出荷するための施設整備等に取り組んでいること。

沖縄県産業振興公社の熊切氏は、「三年前の米国同時テロの際に

る。」と述べました。

の改善の必要性を説かれました。

要性を説かれました。

省が必要。また、県産品を奨励し

を述べました。

だされました。

した。



らんな意見の交換が行われました。

先付
八寸

合肴

煮物



塩豚の沢煮椀
 パパイアの炊き込み御飯・豚肉・島人参・ゴボウ
 三種盛り
 西瓜・タンカン

の施策に反映させていきます。